

黒毛和種における効率的な過剰排卵処理法の検討

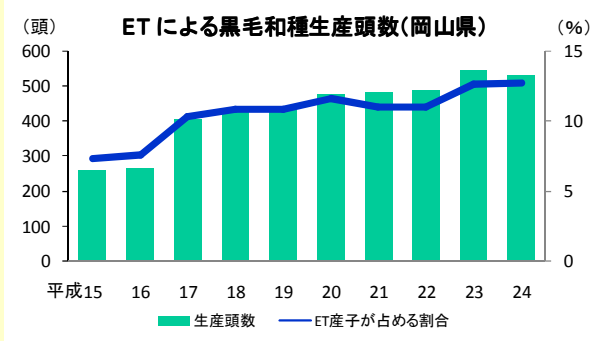
岡山県農林水産総合センター畜産研究所 改良技術研究室

立川優子

中原仁

背景および目的

岡山県では、受精卵移植（ET）による黒毛和種生産が年々増加し、生産頭数の約1割をET産子が占めるようになっている。需要の拡大にともない、受精卵の安定的な確保が求められている。



一般的な過剰排卵処理は、豚脳下垂体由来卵胞刺激ホルモン（FSH）を投与するが、近年、馬絨毛性性腺刺激ホルモン（eCG）を併用すると排卵数および胚の品質が向上するとの報告がある。

そこで、黒毛和種において、eCGを併用して投与することで採胚成績が向上し、安定的な受精卵の確保につながるか検討する。

方法

供試牛：黒毛和種経産牛 5頭

試験方法：供試牛1頭に2区の処理を反転して実施

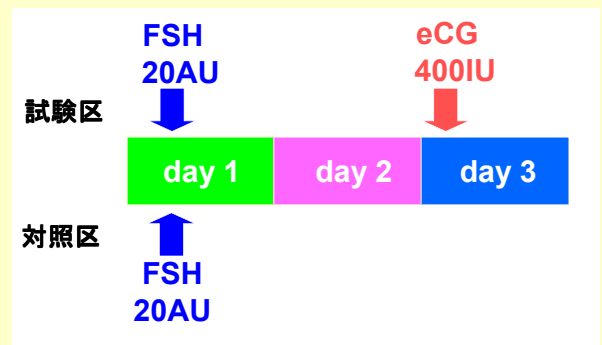
処理区分：

《試験区》eCG併用FSH1ショット法

FSH 20AUを頸部皮下に1回投与
48時間後にeCGを筋肉内投与

《対照区》FSH1ショット法

FSH 20AUを頸部皮下に1回投与



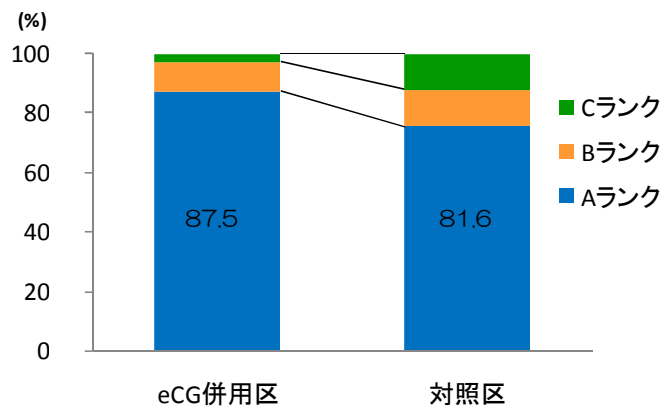
結果

結果1 採胚成績 (mean±SD)

	eCG併用区	対照区
推定黄体数	24.6±12.4	14.8±8.5
遺残卵胞数	4.0±1.4	5.8±0.7
回収卵数	23.2±14.2	11.8±9.2
正常胚数	14.4±10.0	7.6±8.3
変性胚数	8.8±5.9	4.2±4.1

総採卵数、正常胚数とも増加

結果2 正常胚の品質別割合



新鮮胚移植、凍結保存とも可能な
Aランク胚が増加

まとめ

- 有意な差は認められないが、総採卵数と正常胚数を増加させる可能性
- FSH1ショット法にeCGを併用することでAランク胚が増加し、正常胚の品質が向上する傾向

効率的に胚を生産することのできる過剰排卵処理となる可能性